

企業が採用で重視するコミュニケーション力や主体性、ストレス耐性。社会人に必要なこれらの力を来春の選考までに高める方法をまとめました。

「自分は大丈夫」と思っているも、他人はそう見ていないかも。対策の第一歩は、自分に何が足りないか知ることです。身近な人だけでなく、就活イベントなどで出会った社員や他大学生など初対面の相手に印象を聞くななどして、弱点を整理しましょう。

「コミュニケーション」というと、敬語の使い方などを気にしがちですが、問題は実のある会話ができるかどうか。簡潔かつ論理的に話す。一方的に話さず、会話のキャッチボールをする。言葉や雰囲気から意図を的確に読み取る。こうした「話す力」「聞く力」を養うには、とにかく場数を踏むことです。

(関仁巳)

Topics

トピックス

「社会人力」高めよう

◆コミュニケーション力を高める

グループディスカッション

相手	● 数人・同世代・面識なし
内容	● 議題によるが、かしこまった話が主
準備	● 時事問題がテーマになりやすい。新聞や経済誌を読み様々な知識を得る
練習	● 企業説明会で出会った学生と練習する ● 異性を交えるとなお良い

面接

● 1～数人・年上・面識なし
● かしこまった話のほか雑談も
● 時事問題の理解に加え、話題に困らないよう自分の好きなことなどを整理
● OB訪問、親や大学のカウンセラーなどを活用
● 説明会で会った社員など初対面の社会人と話す

◆主体性を養う

対策は？

- 自分で戦略を立てて積極的に就活する
- ゼミ、アルバイトなどで創意工夫を習慣化する

◆ストレス耐性を強化する

対策は？

- 初対面の人と話す機会を積極的に設ける
- 先輩に就活の挫折経験や乗り越え方を聞く
- 「楽しいイベント」を予定に組みこみ意識的にストレス発散

場数踏んで実のある会話を

より効果的なのは、「相手の年齢や性別、人数、話の内容など、どんな状況下のコミュニケーションが苦手なのか把握し、克服すること」とキャリア支援塾「我究館」の坂本章紀さんは言います。

大勢と話すのが苦手なら、会社説明会で近くに座った学生に「後でグループディスカッションの練習をしよう」などと声をかけるのもいいでしょう。

初対面の人や上の世代との話が苦手な学生は多いでしょう。面接はまさにそれ。キャリアコンサルタントの上原隆さんは「社会人と話す絶対量を増やすべきだ。本番前のこの時期ならば、OB訪問を重ねると良い」と勧めます。

OBがいないなら、説明会で社員に声をかける。ビジネス街の居酒屋で会社員に話を聞く。社会人と話す機会はいくらでも

作れます。

企業が望む主体性とは、他人に頼らず自分で考え、行動できることです。人材活性化コンサルタントの前川孝雄さんは「アルバイトやゼミのやり方など、目の前の現実が本当に正しいのか考える習慣をつけると思考力が鍛えられる」と話しています。もちろん工夫して就活に取り組みむことでも主体性は磨かれます。

最近ではストレス耐性を気にする企業が増えています。学生にとっては、就活そのものが大きなストレスでしょう。それだけに、逃げずに就活を乗り切れば耐性はかなりアップするはず。

心を癒やす仲間や場所をつくり意識的に活用する。就活日記は必ず前向きな言葉で締めくく。気持ちをコントロールしながら、ストレスに強い自分を作りましょう。

◆企業が今春卒の選考で特に重視した点



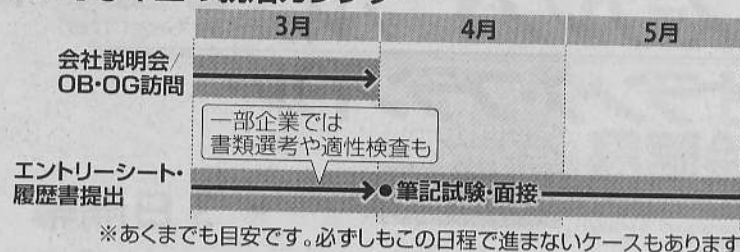
日本経団連調査より。今年2～3月実施。回答社数387。25の選抜肢から企業が五つを選んで回答した

原田デスクの
必勝講座

4月になれば、企業の面接が本格化します。これからが正念場です。がんばって乗り切りましょう。

面接は企業と学生が直接対面する場となります。よって、あらかじめ何度も推敲したり、知人に読んでもらうなどの入念な準備ができるエントリーシート(ES)に比べて、ボロが出る可能性が高まります。思わぬこ

◆大学3年生の就活カレンダー



面接の春へ 技術磨いて

面接では「伝わりやすい要素」と「伝わりにくい要素」があります。もしもあなたが、「明るさ」「礼儀正しさ」などを伝えたいと思えば、例えば「明るい笑顔」や「礼儀正しい物腰」だ

とをしゃべってしまい、面接を台無しにしてしまうこともあります。

入室から退室まで、面接官は注意深く学生を観察しているの

で、気を抜くことはできません。しかし、過度に形にこだわる必要もありません。注意すべきはおじぎの角度などではなく、自分の良さを間違いなく相手に伝える技術です。

面接では「伝わりやすい要素」と「伝わりにくい要素」があります。もしもあなたが、「明るさ」「礼儀正しさ」などを伝えたいと思えば、例えば「明るい笑顔」や「礼儀正しい物腰」だ

ピポードを話す受験生が少なからずいます。こうなると、話の内容よりも論理的でない話しぶりの方が問題となります。慣れない敬語に気を取られているようでは、初めから戦いは不利です。普段から、異世代の人との交流に慣れておくべきでしょう。

面接会場で論理的に話せるかどうかは、決定的なポイントです。論理的な話し方そのものが評価されますし、その結果、話した内容によって、みなさんの人柄が相手に無理なく伝わるからです。

(原田康久・読売新聞人事部次長・採用担当デスク)

例えば、「粘り強さ」「頭の回転の速さ」「誠実さ」などは、面接会場の態度からではなく、言葉を通じて伝えるべき要素です。それらの要素がみなさんのアピール点であれば、短い時間で、効率よく伝えなければなら

ない。簡潔にエピソードを交えて話すのです。ESと同じく、やはりエピソードをどれだけ多くもっているかが、ここでも力ギとなります。

緊張のあまり、ダラダラとエピソードを話す受験生が少な

エピソード 簡潔に伝える

社会人になるのだということを普段から心がけよう



◆原田流 面接のコツ

- ・異なる世代の人と積極的にコミュニケーションをとっておく
- ・敬語に慣れておく
- ・学生時代などのエピソードを思い出しておく
- ・論理的かつ端的に話せる技術を身に付けておく

態度で伝わる素質

話して伝わる素質

